

【学校教育目標】「進んで学び 共に世界で生きる子」

1 令和6年度の取り組み

合言葉	にこにこ えがおで なかよくします
子供像	相手を思いやり誰もが気持ちよく過ごせるよう行動する子
指導の重点	(1)よい人間関係を築くための言葉を適切に使える。 (2)自分たちの生活は、自分たちでよりよくする。

しっかり かかわり かんがえます
人・もの・ことのかかわりから進んで学ぶ子
(1)学ぶ意義を知る。 (2)自分の考えをもってかかわる。 (3)かかわりを通して高まった自分に気付く。

のびのび げんきに かつどうします
自分の心と体を知り、健康・安全に気を付け、自己の向上を目指して活動する子
(1)体を動かす楽しさを味わい進んで運動に取り組む。 (2)けがや病気の無い、健康で安全な生活をする。 (3)自分の心と向き合い、自己の理解を深める。

こつこつ ねばりづよく とりくみます
自分の思いや考えを持ち粘り強く頑張る子
(1)「何をしたいのか」「どうなりたいのか」という自分の思いを見つめ、その達成のために取り組む。

そう思う、だいたいそう思う	児童	保護者	職員
時や場を考えて温かい言葉づかいをしている。	92.2%	87.8%	96%
自分の仕事ややるべきことを精一杯行っている。	95.7%	89.4%	98%
安心して学校に通い、楽しい学校生活を送っている。	94%	94.1%	97%
みんなが気持ちよく過ごせるように、相手の気持ちを考えて行動している。	93.7%	93.1%	96%
自分の生活をよりよくするために、できることを考えたり、行動したりしている。	94.5%	85.4%	91%

そう思う、だいたいそう思う	児童	保護者	職員
よりよい自分になるために、進んで学習に取り組んでいる。	95.7%	73.9%	86%
タブレットを使った学習は、分かりやすい。	92.3%	88.4%	82%
タブレットを活用して学習をすると、自分の考えが広がったり深まったりする。	91.1%	84.2%	88%
友達と協力して物事を行うことは、楽しい。	95.7%	96.7%	88%
地域の方や外部の方から話を聞いたり、教えてもらったりすると学習がよく分かる。	96%	93.3%	94%

そう思う、だいたいそう思う	児童	保護者	職員
体を動かす楽しさを味わい、進んで運動に取り組んでいる。	93.3%	89.7%	94%
事故やけが、病気に気をつけて健康で安全な生活をしている。	95.1%	94.9%	93%

そう思う、だいたいそう思う	児童	保護者	職員
むずかしいことでもあきらめずねばり強く取り組んでいる。	92%	76.9%	94%
夢やめあてに向かって努力をしている。	93.1%	79.9%	94%
教師はお子さんががんばると褒めたり励ましたりしている。	94.3%	94.3%	94%

子供のじまん「3つのきれい」に対する評価

	児童	保護者	職員
「きれいな心」を意識し自分から進んで気持ちのよいあいさつをしている。	97.4%	84.5%	91%
「きれいな歌声」を意識し自分や友達の声を聞いてきれいな声で歌っている。	93.9%	94.2%	94%
「きれいな学校」を意識しそうじや整理整頓をして身の回りの環境を整えている。	96.5%	81.8%	89%

学校運営協議会による学校関係者評価

・児童からの高評価の項目が多いことから、西小の地域のよい所を生かした教育がされていることは評価できる。しかし、よりきめ細かく実態を把握したり、対応策を熟議したりしていくために、前年度比を出したり、年度途中に中間評価をしたりしていく必要があると感じる。
・「安心して学校に通い、楽しい学校生活を送っている」と回答していない6%の児童に注目していることがよかった。不安を感じている子たちへのフォローやケアを今後も継続して行ってほしい。
・児童と保護者ではアンケートの結果に差が見られ、特に保護者の評価が低い項目が多い傾向にあった。可能であれば、そのような項目には、保護者が児童のどのような姿を見て思っているのか、家庭での様子を知ることができるようなアンケートが取れるとよい。
・子供たちの目標になるような、賞揚される機会を増やすことで、子供たちが目標をもって取り組めるようにして行ってほしい。

児童・保護者・職員の意見

○よいところ

- ・みんな仲がよく、のびのびしているところ。
- ・落ち着いた雰囲気の中で安心して学校生活が送れるところ。
- ・縦割り活動でいろいろな学年の子と交流ができるところ。
- ・地域が積極的にボランティア活動に参加し、教育活動が充実しているところ。
- ・鴨江出張所や中央図書館、鴨江アートセンターなど、地域の学習環境が充実しているところ。
- ・友達の頑張りやよいところを素直に認めることができるところ。
- ・困っている子がいると、何か自分にできることはないか一緒に考えてあげられるところ。
- ・1年生から英語学習に取り組んでいるところ。

○今後実践するとよいこと

- ・イベントを行い、他学年や同学年との交流を増やす。
- ・学習や生活で困ったときに質問や相談をしやすい環境作り。
- ・地域の学習環境を積極的に利用したり、各教科と関連させながら、校外学習や外部講師の授業を増やしたりする。
- ・学校での生活の様子をより一層家庭と共有するための発信方法を工夫していく。

今後の改善方策

- ・日ごろから児童理解に努めたり、道徳やグループエンカウンターを実施したりすることにより、児童の認識や集団の自浄力改善を図る。
- ・学期に1回のいじめアンケートを基に、いじめの早期発見、早期対応ができるようにする。
- ・進んで学習に取り組むことができるように、「子供が自ら課題解決するための学び方を選択できる単元構想」をテーマにチーム研修を進め、授業改善を行う。
- ・キャリア教育の浸透のため、年度当初に身に付けたい力について児童と共通理解を図り、めあてに生かす。学習や行事の中で定期的な振り返りを実施し、学ぶ意欲を高められるようにする。
- ・情報を提供する手段として、メールやホームページの効果的な活用に努めていく。
- ・児童や保護者の実態をより把握することを通して、課題や対応策を考えていくために、前年度比や経年変化が分かるアンケートを実施する。

<分析・考察>

全体的に高評価の項目が多いことから、児童は基本的な生活習慣が身に付いており、安心して生活していることが伺える。今後も一人一人のよさを認め、励ましながら、家庭・地域・学校と連携を図って教育活動を進めていきたい。

全国学力学習状況調査は、国語・算数の平均正答率が、ともに全国平均及び静岡県平均、浜松市平均を上回っており、基礎的な学力の定着が図られていると言える。これは、これまで学習の積み重ねはもちろん、家庭学習にも真剣に取り組んできた結果と言える。

㊦・94%の児童が「安心して学校に通い、楽しい学校生活を送っている」と回答している。全体的にはよい結果だと思われるが、6%の児童はなんらかの不安を感じていることになる。引き続き、一人一人の児童に寄り添うことで、児童が安心して学校生活を送れるようにしていきたい。いじめに関することとしては、児童や保護者から連絡があった際に、担任だけでなく、チームで初期対応にあたっている。そして対策委員会で方針を決め、児童や保護者の思いに寄り添いながら指導や対応に取り組んできている。また、ふわふわ言葉週間やいじめ対策週間で学期に1回設定し、児童に「気持ちよく生活するためには、どうしたらよいか」を考えさせ、よりよい人間関係についての意識を高めている。

㊧・学習への取り組みについての評価は児童、保護者、職員で差が見られた。与えられた課題に素直に取り組む児童が多いが、自ら進んで学習に取り組む子供は少ないと言える。学年の発達段階に応じたキャリア教育の取り組みを行い、児童が学校での学習と自分の将来との関係に意義を見出し、学ぶ意欲を高められるようにしていきたい。また、今後一層、ICTの効果的な活用方法について考えていきたい。

㊨・運動会や持久走週間、縄跳びカードなど目標をもって進んで運動に取り組む児童が多い。その一方で、学校外の場で体を動かして遊ぶ児童が少ない実態がある。学校から家庭での運動、外遊びの働き掛けをしていきたい。また、体力テストの結果は、立ち幅跳び、ボール投げに課題があった。

㊩・夢やめあてに向かって努力をすることの大切さは、多くの児童に浸透している。一方、保護者は児童が夢やめあてに向かって進んで活動に取り組んでいるとは思っていないようである。ホームページや学校、学年だよりなどで、もっと学校の活動の様子を広めていく必要がある。

㊪・3つのきれいを意識することが、豊かな生活につながっていることを実感できている。今後ますます自分の学校に誇りを持ち、みんなでよりよい西小を創るという意識を高めていきたい。